

翔

百万石蝶談会 No 157

August 2002



石川県金沢市でムラサキシジミの幼虫を観察

松井 正人

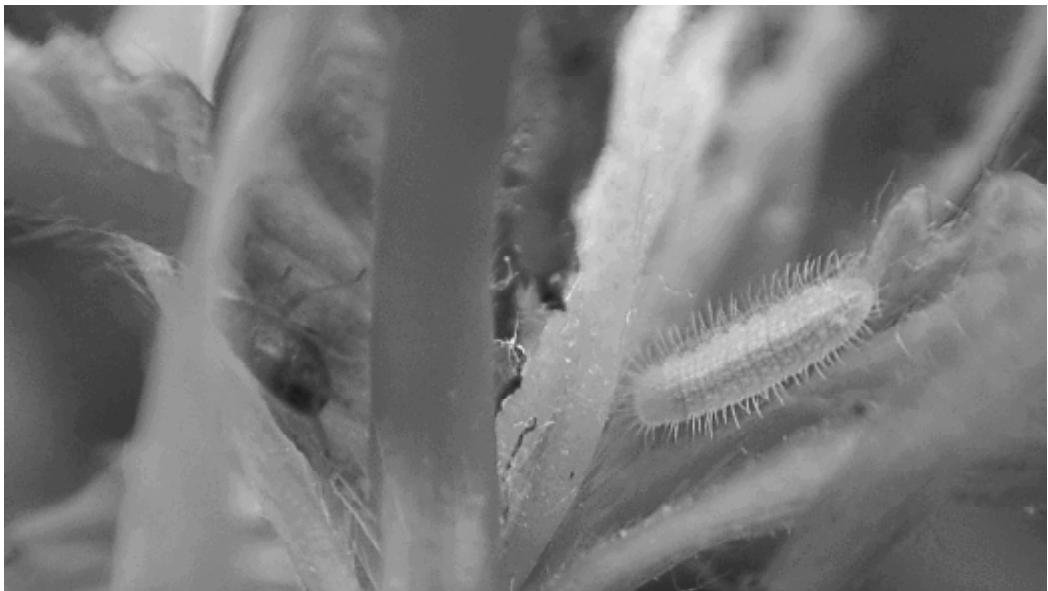
石川県内におけるムラサキシジミの記録は少なく、これまで20例程度の記録しか知られていない。また、幼虫や卵などの観察例はなく、県内での発生は確認されていなかった。

本年は、6月下旬から医王山の近接した場所で2頭の本種が相継いで採集され、このうちの1頭が採集された周辺で、採集の翌日に2齢と思われる幼虫10頭が見付かった。全て似たような大きさであり、同時期に産卵されたものと思われるが、産卵されてからの日数はかなり経過していると思われる、この間この場所には、1頭あるいは複数の成虫が飛んでいたと思われる。

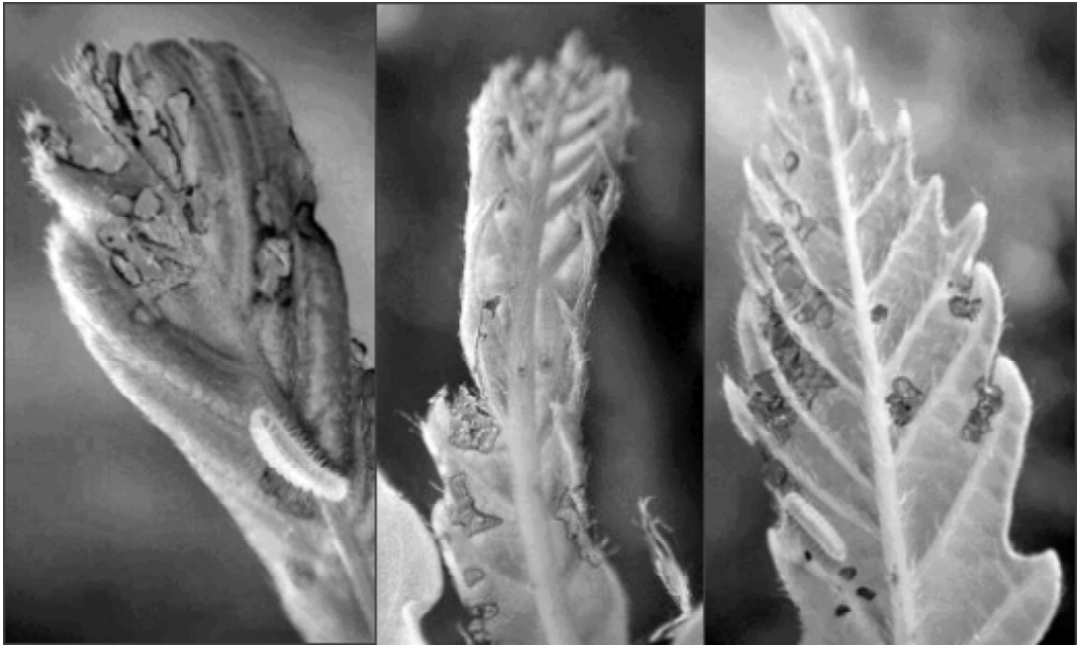
幼虫は、枝先から伸びた成長途中の柔らかい土用芽の先端付近の葉に静止し、1頭以外は全て葉裏から発見された。葉には、網目状の食痕が残され、幼虫発見の目印となった。幼虫付近にアリは見られなかったが、土用芽が吹き出した枝には、たくさんのアブラムシ成虫やアリが観察できた。周辺の木々の背丈は2～4m程度と低く、直射日光も当たる明るい環境で、幼虫を観察した土用芽の高さは、1～2m程だった。今年は、鱗翅目幼虫による食害が、山間地の樹木に激しかったせいか、この時期に多くの土用芽がみられ、ムラサキシジミの産卵には、好条件になっていると思われる。

2002年7月7日 石川県金沢市医王山三千坊 10幼（ミズナラ） 松井正人

最後に、本種採集の連絡をいただいた浅地哲也氏、また、採集地へ案内していただいた細沼 宏氏に感謝申し上げます。



ムラサキシジミの幼虫とアブラムシ



葉裏からなめるようにつけられたムラサキシジミの食痕



幼虫が見つかったミズナラの土用芽(矢印)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

4月下旬～5月上旬に舢倉島で観察した蝶類

矢田新平

筆者は、石川県輪島市舢倉島の渡鳥調査のため、1975年より春と秋、定期的に渡島しているが、1993年より蝶類にも意識的に注意を払うようにしてきた。しかし、残念ながら蝶類の観察を心がけるようになってからは秋の渡島はしておらず、春のしかも連休のみの限られた日の観察しかしてこなかったが、下記のごとき4種類の蝶を確認することができた。

渡島年と観察した蝶

年	渡島日	観察した蝶
1993年	5月2～4日	蝶確認できず
1994年	渡島せず	
1995年	渡島せず	
1996年	4月28～29日	ヤマトシジミ
1997年	4月28～29日	ヤマトシジミ
1998年	渡島せず	
1999年	5月1～3日	ヤマトシジミ、モンシロチョウ
2000年	4月29～30日	ヤマトシジミ
2001年	5月3～5日	ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ
2002年	5月3～5日	ヤマトシジミ、アサギマダラ

■ヤマトシジミ 1996年4月29日（2頭採集1頭目撃）、1997年4月29日（1頭採集）、1999年5月1日（1頭目撃）、2000年4月30日（2頭採集）、2001年5月4日～5日（多数目撃3頭採集）、2002年5月4日（1頭目撃）島の最優先種であった。気温さえ高ければ必ず観察され、島に定着しているものと思われる。

■ベニシジミ 2001年5月4日（2頭目撃3頭採集）
 遇産なのか、渡りをしているのか分からない。

■モンシロチョウ 1999年5月1日（1頭採集）、2001年5月5日（1頭目撃1頭採集）
 島に定着しているのか、内地から野菜とともに持ち込まれたのかは分からない。

■アサギマダラ 2002年5月5日（1♀採集）
 春と秋の渡りの時期に観察されているらしいが、今回の記録は、春の渡りとしては早い方に属すると思われる。

《やた しんぺい 〒923-0802 小松市上小松町丙192-8》

輪島市とその周辺に於けるオオヒカゲの記録と生態

日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗

石川県輪島市におけるオオヒカゲの最も古い記録の一つが、浅見行一・的場和雄（1952）にあり、そこには採集・観察地として河原田村と輪島町（いずれも現在の輪島市）があげられ、記録された月は6～9月と記されている。そしてその解説に「時々採集され、一昨年9月本校校舎内に於いても採集されたことがある」とある。これより推察するに、当時は個体数は多くないものの、それほどめずらしい種ではなかったようにみえる。

一方、1980年代に能登半島のオオヒカゲがかなり広範囲にわたって調査された結果、「能登に普通にみられる」と記されるほどに各地で発生していることがわかった（松井正人・嵯峨井淳郎, 1980、松井正人, 1982）。しかし幼虫に比して成虫の観察は難しいようにみえる。

そのためもあってか、筆者の1人日吉芳朗が蝶の採集活動を再開した1993年以降をも含めて2000年までに採集した個体は7頭にすぎなかった。

1954年6月25日	輪島市河井一本松公園	1♂	日吉芳朗
1965年7月16日	輪島市河井輪島高校	1♂	日吉芳朗
1993年8月29日	輪島市石休場	1♀	日吉芳朗
1997年8月23日	輪島市石休場	1♀	日吉芳朗
1997年8月28日	輪島市三蛇山	1♀	日吉芳朗
1999年7月30日	輪島市鉢伏山	1♀	日吉芳朗
2000年7月30日	輪島市宝立山	1♂	日吉芳朗

ところが2001年5月5日、松井正人氏が輪島市ヘゼフィルスの幼虫調査に来られた際、三蛇山のミズバショウ群生地で幼虫3頭を見つけられた。この環境はやや暗い湿地帯でスゲがびっしり生えている。また日吉南賀子も当日2頭を採集し、さらに5月9日にも2頭を得た。

2001年5月5日	輪島市三蛇山	3幼	松井正人
2001年5月5日	輪島市三蛇山	2幼	日吉南賀子
2001年5月9日	輪島市三蛇山	2幼	日吉南賀子

これら7頭は、6月21日から7月2日にかけて4♂2♀として羽化した。1幼については、6月6日深夜の激しい雨のために葉上よりすべり落ちたのか、行方不明になってしまった。白水隆監修（1972）には、オオヒカゲの寄生率が非常に高いような記述がある。しかし、石川県下では採集した幼虫や蛹から寄生蠅や寄生蜂が出てきた報告はなく、100%羽化するとされており、ここでもそれが実証されたと考えられる。ともあれ、このことが輪島市内にも多数発生する地域があるのではないかと希望をいだかせた。

9月2日、ハッチョウトンボの生息地探索を目的として、初めて三井町与呂見坂田をたずねた。ハッチョウトンボに出会うことはなかったが、明るい休耕田と草丈の高いスゲの生える湿地が入り混じるかなり広い範囲に、時期的に遅いにもかかわらず多数のオオヒカゲが翔びまわっていた。再度9月8日に訪れた時も、状況はほとんど変わっていなかった

が、これらの個体のほとんどは鱗粉がはげ落ちて薄くなっていた。

2001年9月2日 輪島市三井与呂見坂田 1♂2♀10頭以上目撃 日吉南賀子・日吉芳朗
 2001年9月8日 輪島市三井与呂見坂田 2♂4♀10頭以上目撃 日吉南賀子・日吉芳朗

なお、2001年には輪島市周辺でもいくつかの個体が採集・目撃できた。

2001年7月3日 鳳至郡門前町鬼屋 2♂ 日吉宏朗
 2001年7月4日 鳳至郡門前町鬼屋 2♂ 日吉宏朗
 2001年7月8日 鳳至郡門前町鬼屋 2頭目撃 日吉南賀子
 2001年9月9日 鳳至郡柳田村小間生 1頭目撃 日吉芳朗
 2001年9月9日 珠洲市若山中田 1♀ 日吉芳朗

《参考文献》

浅見行一・的場和雄（1952）石川県旧鳳至郡の蝶類について：10，14．輪島高等学校。
 松井正人（1982）石川県産オオヒカゲの新産地．翔（32）：3。
 松井正人・嵯峨井淳郎（1980）口能登～中能登にかけてのオオヒカゲの調査．翔（19）：4-6。
 白水隆監修（1972）原色日本昆虫生態図鑑 IIIチョウ編：254．保育社。
 《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

オオモンシロチョウ越冬蛹の羽化時期と寄生蠅の羽化時期

松井正人

2001年9月末、北海道産オオモンシロチョウの終齢に近い幼虫12頭をいただき、飼育したところ、全て越冬蛹になった。2002年になって羽化を観察していると、8蛹から寄生蠅が脱出蛹化し、3蛹からオオモンシロチョウが羽化、1蛹は死亡した。この観察で得られた寄主と寄生者の羽化時期について報告する。

報告にあたり、オオモンシロチョウの幼虫をいただいた細沼 宏氏にお礼申し上げる。

	3月	4月		5月	
		10日	20日	10日	20日
オオモンシロチョウ羽化		♂		♀	♀
寄生蠅脱出蛹化	←→				
寄生蠅羽化			↔		

オオモンシロチョウは、4月8日1♂、5月12日1♀、5月21日1♀が羽化した。
 寄生蠅は、3月24日から4月7日に脱出蛹化し、4月14日から4月20日に羽化した。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

クロホソコバナカミキリの追加記録と一知見

井村正行

本種は、石川県では白山釈迦林道のブナ帯からダケカンバ帯で、過去に3例の採集記録が有るだけの稀な種であったが、今回多数の確認記録が得られたので、その生態知見と合わせて報告する。

2000年8月16日 白峰村白山釈迦林道(alt. 1500m~1750m) 1♂2♀確認 井村正行
 2000年8月19日 白峰村白山釈迦林道(alt. 1500m~1750m) 4♂3♀確認 井村正行
 2000年8月26日 白峰村白山釈迦林道(alt. 1500m~1750m) 3♂1♀確認 井村正行

これらの個体は、曇り時々晴れの天候で、10時~16時頃に観察し、確認場所は次のとおりであった。

確認場所	確認個体数
ダケカンバの樹皮の無い立ち枯れ木(2本)で	7♂ 3♀
ダケカンバの生木の樹皮の欠損部(2本)で	1♂ 1♀
ダケカンバの倒木の上を飛翔中	1♀
ブナの生木の樹皮の欠損部	1♀
計	8♂ 6♀

これらの結果より、♂はダケカンバの樹皮の無い立ち枯れに好んで集まり、交尾相手との出合の場所となっているように思われた。今回の調査で、立ち枯れ木でも樹皮が完全に残っているものには、本種を確認することは出来なかった。また、雌は樹皮の無い部分に産卵するものと思われ、立ち枯れ木でも生木でも、樹皮が欠損している事が産卵条件のように思えた。今回、ブナもかなり見て回ったが、1雌を確認するに止まった。この事より、ブナよりも圧倒的にダケカンバを好むものと思われる。

《参考文献》

井村正行(1998)コウチュウ目カミキリムシ科, 石川県の昆虫: 204. 石川県.

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊1-128》

カンボジアとマレーシアの蝶事情について

石畑正夫

2002年1月にはカンボジアへ、3月にはクアラルンプールへ行く機会に恵まれたので、両国の蝶事情について報告する。

■カンボジア

1月30日より5日間のアンコール・ワットの旅に参加する機会に恵まれたので、採集の準

備をして参加した。

皆さんもご存じのようにアンコール・ワットは、カンボジアのシェムレアップの町より車で15分くらいのところにあり、歴史によれば紀元1113年から建設が始まり、1200年頃までに完成したアンコール・ワットやアンコール・トムをはじめとして700ほどの遺跡があり、これが、1432年シャム（現在のタイ）によってアンコール王朝が滅ぼされて以来、1860年フランスの探検家アンリ・ムオによって再発見されるまで400年余り、密林の中に眠っていたと言われる。世界で現存する遺跡としては屈指の価値ある世界遺産であり、見るには価値のあるものであった。

カンボジアの蝶であるが、名前は分からないがシェムレアップの町の中にも何種類か見ることができるし、また、遺跡の中にも見ることができた。ただその中には茂っている枝の中に潜っていて、叩くと飛び出すがすぐに潜り込み、なかなか捕らえにくいものもあった。シロチョウやカザリシロチョウの類も何種類か見かけたが、飛び方は早い。林があるところには必ず何種類かは居るが、ツアー旅行のため長い時間追いかけることができず、思うままに採集できなかつたのが実情である。それでも23種類、42頭を採集することができた。

カンボジアでは蝶を採集する人は居ないようだ。網を振っていると必ず何人かは集まってくるし、物売りの子供たちは自分の商売も忘れて、言葉は分からないが指差しながら「あそこへ来た、ここにいる」と教えてくれる。遺跡を監視している警官も始めは珍しそうに見ていたが、やがて私の網を持って楽しそうに追いかける始末、西洋系の老婦人に網を振るポーズをせがまれ、喜んでカメラの被写体になった一幕もあった。

蝶の種類は多いようであるが、ただ、恐いのは地雷である。足を失った物乞いの青年や子供を何人か見たが、うっかり藪の中へ入れないような気がした。

■マレーシア

3月28日、学校の春休みを利用して孫3人を連れてマレーシアのクアラルンプールへ行くことにした。クアラルンプールには長女の主人が、商社を経営して単身赴任しているので、それを頼って行ったのである。

3月28日12時50分成田発、同日夜クアラルンプール着。翌3月29日は、専用の運転手に、富山大学卒業の中国人の通訳を付けて市内及び近郊の見物で、その中にバタフライ・ガーデンの見物が入っていた。広い飼育網の中で、150余種類、8000頭の熱帯蝶が乱舞する姿はとても日本では見るできない光景、蝶への夢がかき立てられる思いであった。

出発に当って蝶談会の指田先生に予備知識を授かりたいとも思ったが、向こうでどんな計画をしているか、加えて見物を期待している孫たちのことを考えると、自分の欲望ばかりを主張するわけには行かないと思って諦めた。

3月30日、31日とキャメロンハイランドへ行く計画をしてくれたので、相当期待して出

発した。専用車で運転手を含め6人で午前11時出発、高速道路を北上、タバーのインターチェンジから別れてキャメロンハイランドへの道に入る。すぐに道は狭くなり、舗装は完備しているが曲がりくねった山道である。車窓からは時々シロチョウの飛んでいるのが見える。20kmほど走るとイスカンドル滝がある。大きな滝ではないが休日のため観光客で混雑していた。4種類の蝶が見えたが人が多くて採れる状態ではなかった。再びキャメロンハイランドへ向かい、途中見晴らしのよい紅茶園で休憩して間もなくタナー・ラタの街へ入る。この街の右へ入った小高い丘の一角に素敵な建物が並んでいる。最近盛んに勧誘しているロング・ステー用のハウスであろうか、こんなところなら暫く住んでみるのも悪くないと思った。私達はさらに上方のキャメロンハイランド・ゴルフコースのそばにあるスモークハウスホテルに宿泊することになった。チューダ様式の小さなホテルであるが、創業は古く、格式も高く、料理も一流を誇っているという。

31日はバリット滝（小さな滝である）の駐車場まで送ってもらい、ここで3時間はど過ごすことにしたが、地元の話では「ここに蝶はいない。ここから30kmほど下った所の滝付近には居る」とのこと、イスカンドル滝のことである。しかしあそこまで送ってもらっては時間がなくなるのでここで探すことにした。トレッキング用の急坂の山道を山上の見晴らし台まで上ってみたがやはり蝶は少なかった。予定の時間となり、迎えの車がきたのでブリッチャンへ行き、一軒のバタフライ・ファームへ見学に入ったら殆どがマニアには喉から手が出そうなラジャ・ブルックで、その他に蛇、サソリ、木の葉虫、カメレオンなど珍しい小動物も飼育されていた。

4月1日はゲッティング・ハイランドへ行くことにした。ここは2000mの山頂に3棟の大きなホテルと遊園地があり、マレーシア唯一のカジノがある。孫たちを遊園地に遊ばせておいて私は蝶を探しながら下ることにしたが、ここの道路は日光のイロハ坂のように、急な山の斜面を切り崩して作った片側2車線の広い道路で、ブレーキの音をきしませて、猛スピードで上り下りする車で道路を横切るのも危険な状態、蝶は下から上がってきて道を横ぎり上へ飛んで行くが、追いかけることができない。8kmほど歩いてスリラヤンの交差点へきたが約束の時間となり、車を待っていると数種の蝶が飛んで行った、その中に大きなキシタアゲハも見えた。ここにはゴルフ場や農家もあり、ゲッティング・ハイランドではここスリラヤンが採集のポイントであるように思われた。

4月2日は市内で用事を済ませ、夜はセランゴール・リバーのホタル見物に行ったが、このホタルはゴマ粒位の大ききで、幼虫はブルンバン（マングローブの一種）の葉を食餌しているという。クリスマスツリーのように、兩岸のブルンバンの木いっぱい何万匹と光る様子は「素晴らしい！」の一言に尽きる光景であった。

この旅行で蝶は15種類、30頭とホタル6匹のささやかな収穫であったが、もう一度本格的な採集に行きたいと思っている。

《いしはた まさお 〒928-0001 輪島市河井町1部17-1》

を予定している。二〇〇〇年までの文献を収録し、予約限定販売。予約は八月に行われる予定。

林床に瞬く無数のヒメボタル

小松の山間地で開かれたヒメボタル観察会に参加した。発光期間が一週間、発光時間帯が深夜となると、なかなか観察できないが、金沢ホタルの会の加藤氏の案内で、観察が叶った。深夜十二時、ストロボ発光しながら林床を低く飛ぶヒメボタルによって、暗闇に林床が浮かび上がった。

エサキキンヘリ割り出しに成功

タマムシ界のピカピカどころ、エサキキンヘリの割り出しに、中西氏が成功した。白峰の河原でヤナギから頭を出しているところを見つけ、多数を割り出したが、ほとんど頭も一緒に削ってしまった。

能都町鶴川にホシミスジ?

蝶研フィールド一九三号によると、鳥取から福井の海岸

線に、イワガサを食樹としたホシミスジが分布し、イワガサがホシミスジ分布の鍵を握っているらしい。そして、石川県樹木分布図集によると、能都町鶴川小垣にイワガサがある。さて、ホシミスジは分布しているのだろうか。

医王山でヒサマツミドリシジミ

七月六日、夕霧峠から国見ヒユツテに向かう途中でヒサマツミドリ二♂がゲットされた。猛暑と強風の中、同業者は見あたらず、ゼフ竿を担いでいるのは唯一ひとり、余裕で振ったネットに二頭が吸い込まれた。この山塊で成虫が採集されたのは初めて、ましてや石川県でのヒサマツの記録は卵、成虫共に初。この快挙、細沼氏が成し遂げた。

紙吹雪の様にゼフが舞う

大風で木が波の様に揺れ、眺めていると船酔いにもなりそう。大杉谷。ゼフ達も、樹上から避難し、下草などに止まっている。そんな中、一

頭の子が飛び立てば、周りの♂が追尾し、それは風に舞う紙吹雪。試しに振った嵯峨井氏のネットには、一♀十三♂のエゾミドリが入っていた。

加賀地方は、強風注意報

台風の影響からか、大風が吹き、木々は千切れんばかりに波打っている。こんな時こそ、ゼフの採集日和り。みんな下草に降りていて、一本だけでホイホイ採れる。長竿もいらない。や首も痛くならない。

例会の記録

六月六日(木)城南管工一階にて八時から開催。 釈迦林道は、今年から工事車両専用となり、一般車は通行禁止となったが、入林許可願は引き続き提出していくことを確認した。また、夏期の市ノ瀬以奥の休日通行許可願に付いては、今年は見合わせる事となった。

その他の話題では、ヒダギフポイントの石川ナンバー、そそのかさされて水の平、水の

平のゲンゴロウ、タカネギフは鈴の音を頼って、ムモンアカの産地は動く、大杉谷のマスタクロホシタマ、珠洲のゲンゴ、などなど。

参加は、井村、久慈、富沢、松井、中西、細沼、西、生田(耕)、勝海、指田の十人。

例会の記録

七月四日(木)城南管工一階にて八時から開催。

中西氏から、エサキキンヘリタマ採集法発見類末記が語られ、次いで今期の医王山ゼフ事情に付いて報告があり、中でも、上から見下ろす馬の背ポイントに話が集中した。

その他の話題では、そろそろ医王山でヒサマツが、中宮のギフチョウとカンアオイ、クロセリとラミーカミキリは時間の問題、河原山のキリ畑にアリが、なぜか少ない今年のアイノ、などなど。

参加は、中西、松井、生田(耕)、西、久慈、井村、吉村、大脇、山岸、勝海(T E L 参加)の十人。

会員の動き・しゃばの動き

クロアゲハの無尾型が羽化
輪島の日吉氏の所で、クロアゲハ無尾型が羽化した。昨秋、自宅の中庭で採卵したなかの一頭で、残りは普通型が羽化した。かつて南方から飛来した無尾型が、遺伝子を残して行ったのだろうか。

雌しか採れないアカシジミ
嵯峨井氏によれば、多産地のアカシジミは採っても採っても雌ばかりとか。きれいな雌ばかりで、雄がいてもおかしくないのに、なぜか採れない。雌が異常に多いのか、それとも、雄は網の届かない所にいるのか。

アサギマダラを探して舳倉島
過去2年の成果から5月末に天候が崩れると、大量飛来があると踏んだアサギチー

ム、天気図をにらみながら、渡島日を決めていたが、いつ行っても島は晴れ上がり、アサギの記録はゼロ。晴れてほしいと降る雨なのに、降れと願えば晴れ上がる。天気に泣かされた渡島であった。

金沢城趾でウラナミアカシジミ
かつては、限られた場所でのしか観察できなかったウラナミアカ、最近が増えて、何処でも観察できるようになってきた。今年は、ついに金沢の中心部、金沢城趾でも観察された。

松本和馬氏、山科で採集活動
本会の産みの親の一人、松本氏が久々に金沢でネットを振った。折しも、医王山では、長竿大会が開かれていたが、ゼフには目もくれず、かつて通った山科に入り込んだ。

ゼフ竿担いで医王山に集結
ゼフシーズン真っ盛りの六月一六日、医王山馬の背ポイントには、例会をしのぐ会員が集結した。手に手に長竿を持った一団を、何も知らない善良な人たちは、遠くから恐る恐る眺めていたとか。

能登で、新産地開拓に励む
能登のゼフはまだまだ未開拓と、松波に勤務の日吉宏朗氏は、奥能登各地で、採集に励んでいる。穴水、内浦、能都、輪島と、アカやミズイロを採集しているが、あつと驚くものが採れるかもしれない。

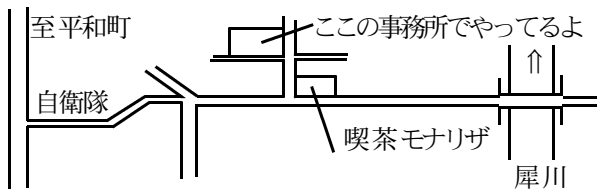
白水文献目録、年内に発刊か
白水先生の日本産蝶類文献目録は、一九七七年までまとめられ、それ以降については、追補版が待ち望まれていた。この追補版、白水文庫刊行会が設立され、ついに発刊されることになった。刊行会の代表は西山保典氏、事務局長は淀江賢一郎氏で、年内に発行

翔 157号

Tobu 2002年8月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (157号)

松井正人：石川県金沢市でムラサキシジミの幼虫を観察	1
矢田新平：4月下旬～5月上旬に舢倉島で観察した蝶類	3
日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗： 輪島市とその周辺に於けるオオヒカゲの記録と生態	4
松井正人：オオモンシロチョウ越冬蛹の羽化時期と寄生蠅の羽化時期	5
井村正行：クロホソコバネカミキリの追加記録と一知見	6
石畑正夫：カンボジアとマレーシアの蝶事情について	6
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	10